

# 保育者養成校における音楽的自立を目指す授業の取り組み

## 幼稚園実習を終えた2年生へのアンケート調査から

About independence of music learning in child care teacher training

Based on the survey of second grade students

who underwent educational practice at kindergarten

鈴木由美子 (千葉敬愛短期大学) Yumiko SUZUKI (Chiba keiai Junior College)

林 麻由美 (千葉敬愛短期大学) Mayumi HAYASHI (Chiba Keiai Junior College)

### (要旨)

養成校における音楽の授業は、とかくピアノの技術指導に時間が割かれ、楽譜の再現を目指したものになりがちである。しかし、実際の現場では、その技術を基に幼児の表現活動の援助が行われていくことが求められる。それは、学生自身が、養成校で習得した技術だけではなく、子どもたちを前にして判断し、考え、実践するための自立した力が求められているという事でもある。学生の音楽的自立を目指すために、授業内でどのような工夫が必要か、実習に行き現場を経験してきた学生へのアンケートから考察する。

### (キーワード)

音楽表現、保育者養成、ピアノ、弾き歌い、自立

## 1. はじめに

保育者養成校に入学してきた学生にとって、現場で必要な音楽技術を習得することは大変困難を伴うことが多い。現場で子ども達と共に歌うための「弾き歌い」、「弾き歌い」をささえる「ピアノ実技」、ピアノが弾けるようになるための「楽典」。入学時、ピアノ演奏経験のない学生はいても、歌を歌ったことのない学生はいない。当然ながら、養成校においては「ピアノ実技」「楽典」から学ぶ。その後、千葉敬愛短期大学では、ピアノ実技用のテキストに、抜粋ではあるが、「指使い付きバイエル」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」(共に全音出版)、その後「幼児の音楽教育」(教育芸術社)を使用し「弾き歌い」を1年次10曲、2年次30曲を学ぶ。その授業において習得されるそれらの技術は、教科

書に書かれた目に見える楽譜を再現するための技術である。現場では、その技術を基にして子ども達の音楽による表現を導いていくが必要になる。それには、指導、そして演奏の技術的な自立ができていなければならない。それは、どのようなことだろうか。保育士養成校の学生が音楽的自立を目指すためには、授業においてはどのような工夫が考えられるだろうか。千葉敬愛短期大学2年、鈴木、林担当学生への実習後に行ったアンケートから考察する。

## 2. 実習における「弾き歌い」についての

### アンケートと結果

目的 現場における音楽的技術のニーズを探る。

対象 平成29年度5月29日から

幼稚園実習に行った千葉敬愛短期大学2年生

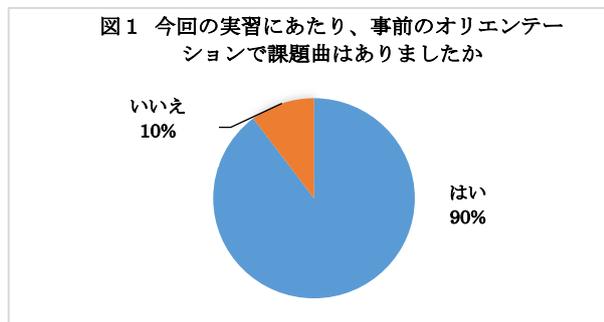
68名(鈴木、林担当学生)

方法 実習後1回目のレッスンにおいて、用紙を配布し記入式で回答、複数回答可、書き込みは具体的にするようにした。

※全くピアノを弾かない、課題曲がない、或いは事前の課題曲が出ていなくても実習中に出る事もあり、回答の総数に変化がある。

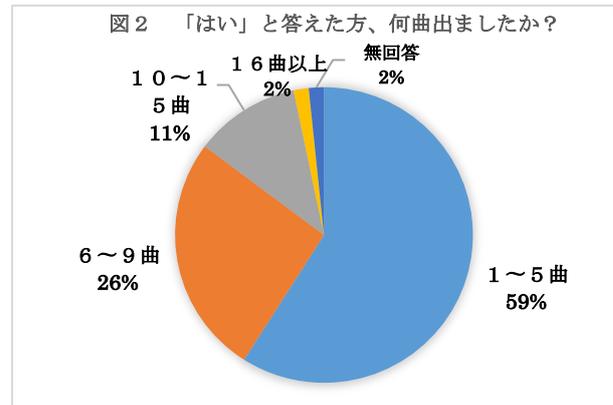
質問1 今回の実習にあたり、事前のオリエンテーションでの課題曲の有無(図1)

はい 61名 いいえ 7名



a. その曲数について(図2)

- ①1~5曲 36名
- ②6~9曲 16名
- ③10~15曲 7名
- ④16曲以上 1名



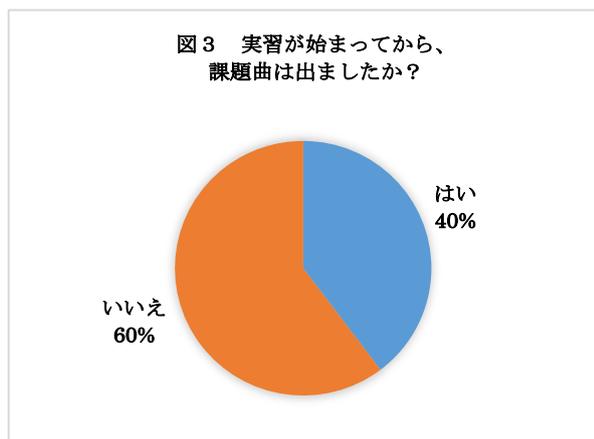
b. 具体的な曲目 表1 具体的な曲目とその人数

おべんとう	44	おかえりのうた	31	おはようのうた	30	さよならのうた	17
とけいのうた	14	バスごっこ	21	こどりのうた	2	おかたづけ	5
あさのうた	7	はをみがきましょう	8	すてきなパパ	9	園歌	8
あまだれぼったん	5	おかあさん	4	かえるのうた	8	大きな古時計	10
おめふりくまのこ	13	こいのぼり	3	かたつむり	12	さよなら	2
みんなでおはよう	2	おはようクレヨン	1	アメチョコさん	1	おとうぼんのうた	4
子守唄	1	うんどうかい	1	右手左手	1	おむねをはりましょう	2
ミッキーマウスマーチ	1	おててをあらいましょう	1	あめふり	1	虹	2
白い歯良い歯	1	七夕	2	山の音楽家	2	おへんじ	1
ピクニック	1	動物園に行こうよ	1	ふうせんくんのぼうけん	1	虫歯建設株式会社	1
唱歌	1	人形の夢と目覚め	1	おはよう	1	あさのごあいさつ	1
あなたのお名前は	2	あめ	1	食前のお祈り	1	アイアイ	1
お辞儀の歌	1	ぞうさん	1	むすんでひらいて	1	おやつ	1
虹の向こうに	1	となりのトトロ	1	さんぽ	4	小さな世界	1
給食のうた	2	月のうた	1	おはようチャチャチャ	1	おとうさん	1
ありさんのおはなし	1	おつかいありさん	1	あくしゅでこんにちは	1	お客様	1
きらきら星	2	シャボン玉	1	よいこのあいさつ	1	なんでもたべるこ	1
つばめになって	1	ドロップスのうた	1	子犬のマーチ	1	誰だっってお誕生日	1

黙想の曲	1	ゆりかご	1	知っている	1	出発だ	1
どこでしょう	1	名まえ	1	手のひらを太陽に	1	友だち賛歌	1
ちいさいおでて	1	いつくしみふかき	1	ながぐつマーチ	1	あしたははれる	1
夢をかなえてドラえもん	1	ばらばらおちる	1	天のおとうさま	1	主に感謝	1

質問2 実習が始まってからの課題曲の有無(図3)

はい 27名 いいえ 41名



a. その曲数について(図4)

- ① 1～2曲 10名
- ② 3～4曲 8名
- ③ 5曲以上 7名
- ④ 記載なし 2名

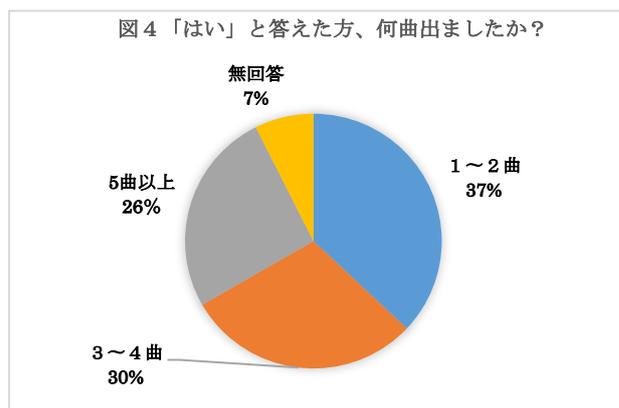
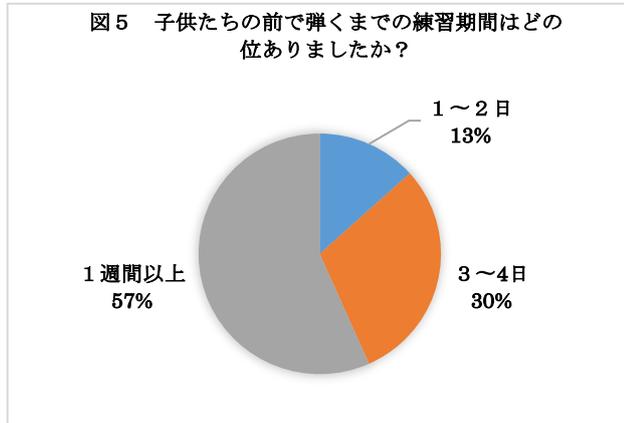


表2 具体的な曲目とその人数

あさのうた	3	おべんとうのうた	3	とけいのうた	2	きらきら星	6
こいぬのマーチ	3	はをみがきましょう	3	さよなら	1	おねむり	1
おとうぼん	1	雨くま	3	人形のゆめと	1	マーチ	1
虹	1	かたつむり	2	パパ	1	むすんで	1
ちょうちょう	1	歌えバンバン	1	シャボン玉	1	大きな古時計	1
勇気100%	1	おかえり	1	課題と違うおはようのうた	1	南の島のハメハメハ	1
さんぼ	1	おかたづけ	1	山の音楽家	1	おやつ	1
アマリス	1	おじぎ	1	はたけのポルカ	1	おかえりのうた	1
かえるのうた	3	大きな栗	2	かたつむり	3	はなのように	1
アマリス	1	おかたづけ	1	大きな古時計	1	あなたのお名前は	1
おとうぼんさん	1	パパはママが好き	1	ニャンニャンの天気予報	1	きらきら星	1
ちょうちょう	1	おむねをはりましょう	1	夢をかなえてドラえもん	1	さんぼ	1
ごちそうさま	1	おきましよう	1	星に願いを	1	おはなし	1
めだかの学校	1	てをたたきましょう	1	うみ	1	アイスクリームのうた	1
かわいいかくれんぼ	1	おもちゃのチャチャチャ	1	森のくまさん	1	ドレミのうた	1
むすんでひらいて	1	シャボン玉	1				

b. 子ども達の前で弾くまでの練習期間(演奏日を含む)(図5)

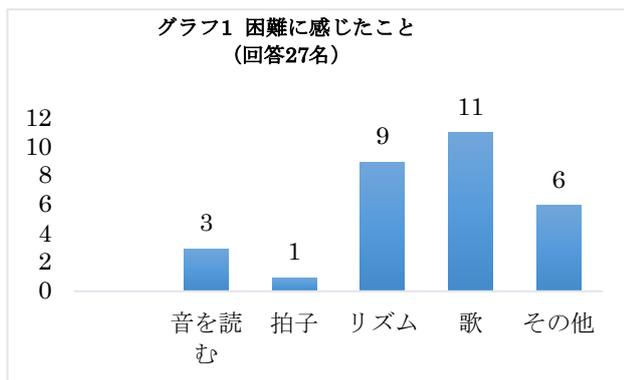
- ① 1日～2日 3名
- ② 3日～4日 9名
- ③ 1週間以上 15名



c. その時の練習で困難に感じた事(複数回答有り)(グラフ1)

- ① 音を読むこと 3名
- ② 拍子 1名
- ③ リズム 9名
- ④ 歌 11名
- ⑤ その他 6名

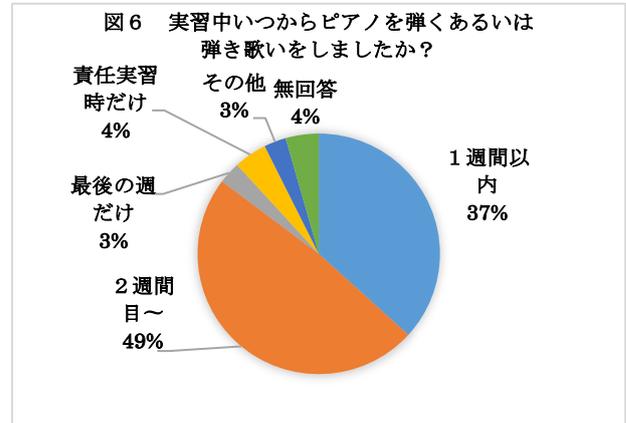
- ・曲を知らなかった
- ・弾き歌い
- ・難しい
- ・調が違い練習のし直し(原文まま)



質問3 実習中、何日目から、ピアノを弾く、或いは弾き歌いをしましたか？(図6)

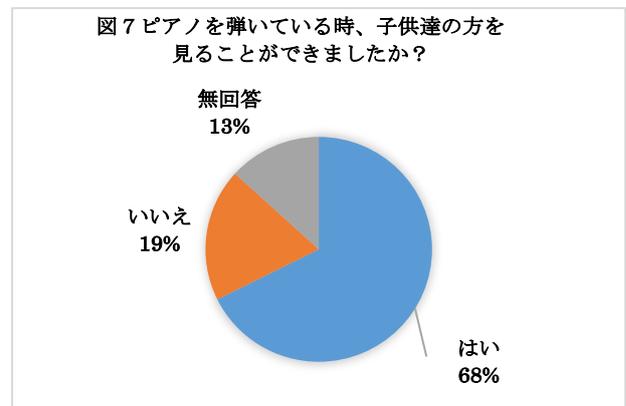
- ① 実習1日目から1週間以内から弾いた 25名
- ② 2週間目から 33名

- ③ 最後の週 2名
- ④ 責任実習の時だけ 3名
- ⑤ その他 2名(そのうち1名は「弾かせてもらえなかった」と記述あり)
- ⑥ 無回答 2名



質問4 ピアノを弾いている時、子ども達の観察ができたか。(図7)

- はい 46名 いいえ 13名
- 無回答 9名



質問5 自分のピアノ演奏、弾き歌いに関する現場の先生からのアドバイス

- ① 子どもの方を見て良かった。 18名
- ② 「どうぞ」等歌いだしを促せてよかった 6名
- ③ 歌がよく歌えていた。 6名
- ④ 先歌いがよかった。 5名
- ⑤ ペダルが踏めると良い。 1名
- ⑥ 歌がもっと歌えるとよい 1名
- ⑦ その他(自由記述) 26名(表3)
- ⑧ 無回答 7名

表3 ⑦その他に書き込まれた自由記述

音がしっかりしていてよかった	だんだんスラスラ弾けるようになった
讚美歌は難しいからコードで	途中で止まってしまっても右手だけ弾いてよかった
止まってしまってもアカペラで歌えていたので良かった	もっと違う曲(課題曲以外)も弾いて、子どもが待っている間等、ピアノを有効活用していいと思うと言われた
止まらずに弾けていた	「どうぞ」ではなく「はい」と声掛けをして
子どもの方をもっとよく見て、声掛けをしてほしい	楽譜にはない曲を弾いていた
「さんはい」を歌う前にいう様に	間違えても、弾き直しをせずに弾き続ける
毎日部分実習をしていますが、ミスをしては子どももスムーズに歌えない	先歌いができるともっとよい
ピアノがしっかりしていた	左手ができなくても右手だけでも弾き続けたこと(まま)
速さもちょうどよいし、間違っても弾き続けた事	子どもの方を見て弾けるとよい
ただ演奏するだけでなく曲の速さを変えたりして楽しめるようになった	曲名を言ってから間をあけずにすぐ弾くこと(子どもはじっとしていることが苦手なので)
テンポが速い	練習を頑張ること
全部弾くこと(前奏のみだった)	子ども達が良く間違うところを特に伝えていてよかった
止まらない	努力をしていてよい
弾けなくても歌える方がよい	堂々と弾けている
簡単にしてくれた(讚美歌)	止まらずに弾けると良いとアドバイスもらった
止まらないで早く弾けるように	これからも伸ばしていく??(原文まま)

### 3. 分析と考察

今回のアンケートで、実習前2週間から5日前に行われたオリエンテーションで実習生に向けて弾き歌い課題曲を出す園は90%であった。その中の60%が1~5曲の課題曲を出している。その内訳は、概ね「生活の歌」「季節のうた」と呼ばれるジャンルの曲で、園における活動の切り替えポイントに音楽や「歌唱」が取り入れられていると考えられた。具体的には、「生活のうた」として、おべんとう、おかえりのうた、おはようのうた、さよならのうた、「季節のうた」として、バスごっこ、とけいのうた、かたつむり、あめふりくまのこ、大きな古時計の頻度が高かった。これは、実習時期が5月末から6月中旬であったことによる。

これ等の曲の作りを見てみると、拍子は4分の4

拍子、4分の2拍子、歌の音域(声域)は、「あめふりくまのこ」のみhからd<sup>2</sup>、「おはようのうた」に1か所d<sup>2</sup>が出ているが、それ以外はc<sup>1</sup>からc<sup>2</sup>と1オクターブ内で出来ている曲が多い。使用されているリズムは、四分音符、八分音符、付点四分音符、二分音符、付点二分音符、付点八分音符と十六分音符の  が大半を占め、「おはようのうた」に複付点四分音符  と十六分音符  (= )、「あめふりくまのこ」のピアノ伴奏部分に三連符が使われている。

また、質問2では「実習が始まってからでた課題曲」について質問した。こちらは出た学生が40%、出なかった学生が60%と逆転し、実習園も事前に課題曲を出す事で実習生に練習時間を与えていることが分かる。また曲数も1~2曲が多く、曲目も「きら

きら星」を筆頭にあまり難しいものは出ていなかった。

この質問2から、実際に現場で使われている(教員が子ども達に歌わせている)曲は、ブルグミュラー25の練習曲の25番「乗馬」や、ソナチネアルバム(全音)の7番第1楽章や4番第2楽章に見られるようなピアノ演奏のためのテクニックは使用されていないことが解る。リズムは  や  が使われており、ピアノ初心者の学生には弾き難さがあると考えられるが、その使用目的が音楽の楽しさや躍動感を表すところならば、指導と練習によって理解と技術の習得可能であると考えられる。

実習が始まってから出された課題曲を実際に子どもたちの前で演奏するまでの期間(質問2-b)は、3週間の実習の中で1週間以上与えられている学生が57%いた。やはりここでも練習期間は与えられていると考えて良いだろう。

質問2-cでは、課題曲を出され自己練習をする際に困難に感じた事を問うた(複数回答有り)私たちは、リズムについて懸念していたのだが、それよりも歌を歌うことに困難を感じた学生が多くいた。ただ、「歌を歌う」ことの何に対して困難を感じたのかが今回のアンケートでは具体的に導き出す事ができていない。その後の⑤その他に「曲を知らなかった」という回答があり、単純に「知らない曲だから難しく感じた」「知らない曲だから歌が歌いにくかった」という可能性も考えられた。

⑤その他の中には、「調が違い練習のし直し」(原文まま)との回答もあった。養成校で学んだ曲が現場では使えず改めて練習をし直さなければならなかったと解釈できた。これは、養成校で行われる授業を受ければ現場で使う曲はできるという刷り込みによる思い込みがあると考えられた。

この回答から、「歌を歌う」ことを困難に感じた学生との共通点があった。それは、「知っている曲ならばできる」「授業で習った曲がそのままの形で出てきたらできる」という事である。これは、自分で楽譜を読み、音にしていく練習過程が身に付いていない

ことを表しているのではないだろうか。

質問5では、実際に学生自身が受けた「現場教員からのアドバイス」について聞いた。自由記述の中に、「曲の流れを止めずに演奏することが大切である」と助言をもらった学生が多くいた。また、止まっても右手だけ或いは歌だけでも歌い続けていく必要性や、歌い出しの声かけなど、子どもに音楽を伝え、その時間を共有するための具体的な方法のアドバイスがあった。その中で、伴奏の難易度について、難易度が高いものが良いと言うアドバイスは見られなかった。寧ろ、シンプルなもので、子ども達に拍子感やリズム感を伝えられるような演奏をし、はっきりと歌い出しや歌詞が伝えられる歌い方をすることが必要であると現場では考えていると推察した。

#### 4. 養成校で目指す音楽的自立と

##### 鈴木・林の授業での取り組み

千葉敬愛短期大学で行われているピアノ実技と弾き歌いを学ぶ「器楽Ⅰ」(1年次、通年)「器楽Ⅱ」(2年次、通年)において、平成30年現在、楽譜を読むための楽典やソルフェージュにあたる授業は無い。担当教員一人につき1コマの学生数は1年生5~6名、2年生6~8名のピアノ実技レッスン(個人)の中で、ピアノの演奏技術を学びながら読譜力を身に付け、目前に提示された曲を「弾けるようになる」ことが目的とされる。

この「弾けるようになる」こととは、学生にとってその練習過程や方法の理解、読譜力の向上や移調を含む応用力を身に付けることと同意義ではないと考える。練習はしなければ弾けるようにはならないが、「知らない曲は難しい」と楽譜を読む前に否定的な気持ちになることを避けるような工夫が必要である。

それには授業内でどのような取り組みが可能だろうか。まずピアノ実技において、学生の行ってきた練習を評価し弾けるか弾けないかで○か×を付けるような二者択一のレッスンは避けるべきである。勿

論最終的には「弾ける」ことは重要ではある。しかし養成校においては、一般的にただ好きな曲が弾けるようになりたいと考えピアノを習う事とは目的が違い、「幼児の表現を導くための技術」として、幼稚園教諭・保育士を目指す学生が学ぶ技術である。それには、その時行われている内容の目的を明確に提示し、より具体的な段階を設けそれをその学生に合わせて指導をしていく事が必要である。

その事を踏まえ鈴木は、授業内で各学生に対応したより具体的な練習方法の提示とその確認を行い、学生が練習してきた曲だけを聞いて宿題を出すのではなく、練習してきた曲を聞いた後、次の曲の構成や留意点、初めて出てくる演奏のポイントのアドバイスをを行った。また、レッスンの順番を同室内で待つ学生に対しては、レッスンを受けている学生の課題曲が自分の弾いている曲ではない時にも、レッスン内で行われているアドバイスを自分の楽譜に自分で書き込むことを行わせている。この方法は、練習方法が理解でき、曲のポイントが分かることで、学生は練習がしやすくなったと平成29年度前期授業評価にあった。

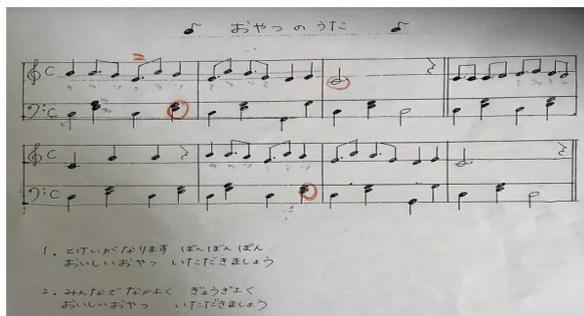
また林は、音価の理解とともに、保育現場に多く使われている躍動感ある曲への対応力を高めるための演習として、メトロノームを活用した練習方法を提示している。この演習は、裏拍に対する意識が高まり、躍動感ある2拍子、4拍子の曲の演奏法を身につける事を目的としている。また、メトロノームのビートを聴きながら練習することにより、自分の音を聴きながら他の音を聴く力(アンサンブルの力)が身につくと考えている。学生はビートを聴きながら曲を最後まで弾ききる、という具体的な目標を持って練習に取り組むこともできる。また、拍のオモテ、ウラを意識するために簡単なリズム楽器を使用し、学生同士の簡単なアンサンブルを行った。このような方法を提示したことは、学生から授業評価(自由記述)において「現場ですぐに役立てられそう(原文まま)」との記述があがった。

## 5. まとめ

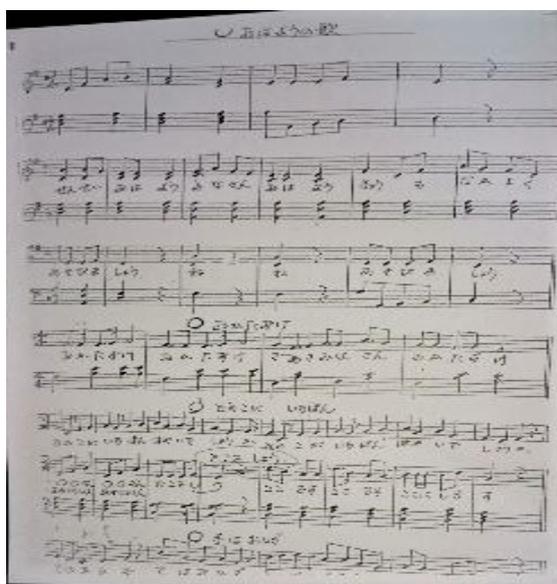
現場にはいろいろな楽譜が存在している。楽譜1、2共に千葉県に在る幼稚園で実際に使用されている楽譜である。

しかし、この楽譜を実習先からもらってきた学生は、これをどう弾いたら良いのか疑問に思い、大いに戸惑う様子を見せる。また、このような楽譜が、その園で脈々と受け継がれている事にも驚きを感じる。学生が課題曲として持ち帰ってきた楽譜を、読み易く書き換える事も、楽譜を探すことも可能ではあるが、この楽譜を使い続けている実習園の「伝統」そして「顔をつぶす」という懸念、これを渡してきた現場職員の「プライド」を慮り、学生達はそのままこの楽譜を使用する。このような現実に対し、養成校の授業ではピアノ演奏技術と弾き歌いを学ばせるだけで良いのだろうか。

楽譜1



楽譜2



今回のアンケート調査から、幼児の音楽表現を導くために行われる「弾き歌い」やその他の音楽活動を、教員として子ども達の前で指導するためには、具体的な音楽技術、或いはそのこと以外の事を含んで「自分で自信をもってできる事を増やす」「出来ない、分からないことがあったら、その解決方法を探す事ができる」「何かアクシデントがあった時に対応できる判断力を養う」ことが重要であると考えに至った。そして、それが保育者養成校における音楽的自立であると考えられる。

その自立を目指した授業を行うために、現在は各々に考えてその取り組みを行っている。成果は学生評価で出ているが、独自の取り組みを共有できるように共に研究を進めていくことが重要である。

また子ども達の成長に、より良い影響を与える音楽技術を持った幼稚園教諭、保育士を育成するには、養成校の授業による取り組みだけではなく、現場に立つ教員、保育士へのフォローアップ、幼稚園、保育園現場に対して働きかけることも必要であろう。

目の前の曲をこなすためだけの授業ではなく、子ども達のより良い音楽表現活動を導くことのできる教員を育成するために、より具体的な指導内容の検討が必要であると考えている。

## 参考文献

- 1、幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育  
教育芸術社 監修・編著 神原雅之・鈴木恵津子
- 2、幼稚園実習における弾き歌い及びピアノ演奏について  
—平成27年度アンケート調査分析結果報告—  
鈴木佑未子(=鈴木由美子) 音楽教育メディア研究 = Music education media 2, 30-38, 2016-03 日本音楽教育メディア学会
- 3、保育者養成校におけるリズム指導の実践と考察  
林麻由美 千葉敬愛短期大学紀要 = BULLETIN OF CHIBA KEIAI JUNIOR COLLEGE (38), 101-110, 2016-03 千葉敬愛短期大学